

# 長崎市レッドリスト

(絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト)

平成30年3月

## 目 次

	頁
1. 長崎市レッドリストの見直しについて	1
2. レッドリスト掲載種及び地形・地質地点数一覧	2
3. 植物	4
4. 哺乳類	10
5. 鳥類	11
6. 爬虫類	13
7. 両生類	14
8. 淡水性魚類	15
9. 昆虫類	17
10. 剣尾類・十脚甲殻類	20
11. 淡水性貝類	21
12. 地形・地質	23
13. 参考資料（各分類群の主要な種の解説・写真）	31
14. 長崎市自然環境調査委員名簿	37

## 1. 長崎市レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）の見直しについて

長崎市では、平成9年度からの3年間、「長崎市環境基本計画」の策定作業に並行して、旧長崎市内の「保護を要する動植物の種の選定調査」を行い、その結果を踏まえて平成12年4月に分類群ごとにレッドリストを作成し、「長崎市レッドデータブック 長崎市の保全すべき野生動植物」を編纂し公表しました。

その後、市町合併による市域の拡大、生息状況や生息環境の変化、環境省のカテゴリーの変更等に基づいて、平成21年3月に新たなレッドリストを公表しました。また、平成23年度末には、長崎市レッドデータブック（平成12年4月初版）の改訂に併せて、レッドリストの見直しを図ったところです。

今回の公表は、平成24年2月の見直しから5年を経過したことと、環境省および長崎県レッドリストの見直しに併せたもので、長崎市レッドリストとして最新のものに整理し公表いたしました。

### 参考

#### 「レッドリスト及びレッドデータブックについて」

野生生物の保全のためには、絶滅のおそれのある種を的確に把握し、一般への理解を広める必要があることから、環境省や地方自治体では、レッドリスト（絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト）を作成・公表するとともに、これを基にしたレッドデータブック（絶滅のおそれのある野生生物の種についてそれらの生息状況等を取りまとめたもの）を刊行しています。

野生生物の生息状況は常に変化しているため、レッドリスト・レッドデータブックにおける評価は、定期的に見直すことが不可欠です。

## 2. レッドリスト掲載種及び地形・地質地点数一覧

### 2-1. レッドリスト掲載種数一覧

カテゴリー 分類群名	絶滅 EX	野生絶滅 EW	危惧 I A CR	危惧 I B EN	危惧 II 類 VU	準絶滅 NT	情報不足 DD	小計	合計
植物									
種子植物	15	1	38	36	43	40	8	181	
シダ植物	5		22	10	10	2	1	50	
植物の計	20	1	60	46	53	42	9		231
哺乳類				3	2	2			7
鳥類			10	15	12	20	1		58
爬虫類			1	2	2	4	1		10
両生類			1	1	2	3			7
淡水性魚類	1		5	6	6	9	3		30
昆虫類	3		22	19	38	45	5		132
剣尾類・十脚甲殻類			3	5	3	6	5		22
淡水性貝類	1		13	4	10	30	15		73
動物の計	5		55	55	75	119	30		339
総計	25	1	115	101	128	161	39		570

### 希少生物カテゴリー区分

絶滅 (EX)	長崎市ですでに絶滅したと考えられる種	
野生絶滅 (EW)	飼育・栽培下でのみ存続している種	
絶滅危惧	絶滅危惧 I 類 絶滅危惧 I A 類 (CR)	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
	絶滅危惧 I B 類 (EN)	絶滅の危機に瀕している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引続き作用する場合、野生での存続が困難なもの。I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの。
	絶滅危惧 II 類 (VU)	絶滅の危険が増大している種 現在の状態をもたらした圧迫要因が引続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のランクに移行することが確実と考えられるもの。
準絶滅危惧 (NT)	存続基盤が脆弱な種 現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位ランクに移行する要素を有するもの。	
情報不足 (DD)	評価するだけの情報が不足している種	

### 2-2. 地形・地質地点数一覧

選定基準	1	2	3	4	合計
地点数	53	131		52	236
地点・地質件数	176	264		83	523

選定基準「基準は小泉・青木(1994) 日本の地形レッドデータブックに従い、一部修正」

- 1 : 日本の自然を代表する典型的かつ希少な地形地質
- 2 : 地学・自然地理学の教育および研究上、注目したがよいと考えられる地形地質
- 3 : 日本各地および長崎市内に多数存在するが、より典型的模式的な地形地質
- 4 : 動植物の生育地として重要な地形地質

2-3. 「長崎市レッドデータブック(平成12年4月)」の掲載希少種数との比較

分 類	長崎市レッドデータブック (平成12年4月)	長崎市レッドリスト (平成21年3月)	長崎市レッドリスト (平成23年3月)	長崎市レッドリスト (平成24年2月)
植 物	201種	218種	232種	230種
両生類	5種	6種	6種	6種
爬虫類	5種	7種	8種	9種
哺乳類	6種	6種	5種	7種
鳥 類	80種	54種	59種	59種
水生生物	10種	91種	91種	91種
昆虫類	94種	97種	97種	96種
合 計	401種	479種	498種	498種

分 類	長崎市レッドリスト (平成29年3月)	長崎市レッドリスト (平成30年3月)
植 物	231種	231種
哺乳類	7種	7種
鳥 類	59種	58種
爬虫類	10種	10種
両生類	7種	7種
淡水性魚類	30種	30種
昆虫類	132種	132種
剣尾類・十脚甲殻類	22種	22種
淡水性貝類	73種	73種
合 計	571種	570種

### 3. 植物

#### 種子植物

#### 絶滅(EX)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アカザ科	ヒロハマツナ	EX	EX	VU	EN	→
ウマノスズクサ科	クロフネサイシン		EX	NT	EX	新
キキョウ科	キキョウ	CR	EX	VU	NT	↑
キンポウゲ科	オキナグサ	CR	EX	VU	CR	↑
トウダイグサ科	ヒトツバハギ	CR	EX		EN	↑
トチカガミ科	セキショウモ	VU	EX			↑
ホシクサ科	ゴマシオホシクサ	EX	EX	EN	VU	→
ムラサキ科	ホタルカズラ	CR	EX		VU	↑
ユキノシタ科	ジンジソウ	EX	EX			→
ラン科	ウチョウラン	EX	EX	VU	EN	→
ラン科	キバナノセッコク	EX	EX	EN	CR	→
ラン科	クマガイソウ	EX	EX	VU	EX	→
ラン科	ササバラン	EX	EX	EN	VU	→
ラン科	ツレサギソウ	EX	EX		CR	→
ラン科	ミヤマムギラン	EX	EX	NT	CR	→

小計 15 種

#### 野生絶滅(EW)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ハマビシ科	ハマビシ	CR	EW	EN	CR	↑

小計 1 種

#### 絶滅危惧 I A類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アカネ科	コバンムグラ	CR	CR	EN	CR	→
アワブキ科	アオカズラ	CR	CR	EN	EN	→
ウマノスズクサ科	ウマノスズクサ		CR		CR	新
ウマノスズクサ科	ツクシアオイ	CR	CR	VU	VU	→
カヤツリグサ科	コアゼテンツキ		CR		CR	新
キク科	タカサゴソウ	CR	CR	VU	VU	→
クロウメモドキ科	ケンポナシ	CR	CR		NT	→
クロウメモドキ科	ハマナツメ	CR	CR	VU	VU	→
シソ科	イヌゴマ	CR	CR		EN	→
シソ科	コナミキ	CR	CR	VU	VU	→
シソ科	ホソバヤマジソ	EN	CR	VU	EN	↑
タヌキモ科	イトタヌキモ(ミカワタヌキモ)	CR	CR	VU	EN	→
タヌキモ科	ミミカキグサ	CR	CR		VU	→
タヌキモ科	ムラサキミミカキグサ	CR	CR	NT	VU	→
トチカガミ科	トゲウミヒルモ	CR	CR	VU	VU	→
ナデシコ科	タチハコベ	CR	CR	VU	VU	→
ノボタン科	ヒメノボタン	CR	CR	VU	CR	→
ハマウツボ科	ハマウツボ	CR	CR	VU	NT	→
ヒルムシロ科	イトモ	CR	CR	NT	NT	→
ヒルムシロ科	センニンモ	CR	CR		EN	→
ヒルムシロ科	ヤナギモ	CR	CR		VU	→
ヒルムシロ科	リュウノヒゲモ	CR	CR	NT	EN	→
ホシクサ科	オオホシクサ	CR	CR		EN	→
ホシクサ科	クロホシクサ	CR	CR	VU	EN	→
マメ科	イヌハギ	CR	CR	VU	VU	→

マメ科	ニワフジ	CR	CR		CR	→
ミカン科	タチバナ	CR	CR	NT	EN	→
ラン科	カンラン	CR	CR	EN	EN	→
ラン科	ガンゼキラン	CR	CR	VU	CR	→
ラン科	セッコク	CR	CR		EN	→
ラン科	ツチアケビ	CR	CR		VU	→
ラン科	ナツエビネ	CR	CR	VU	EN	→
ラン科	ヒメフタバラン	CR	CR		VU	→
ラン科	フウラン	CR	CR	VU	EN	→
ラン科	マメヅタラン	CR	CR	NT	EN	→
ラン科	ムカゴソウ	CR	CR	EN	VU	→
ラン科	ムカデラン	CR	CR	VU	CR	→
ラン科	ムギラン	CR	CR	NT	EN	→

小計 38 種

### 絶滅危惧 I B類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アカネ科	ギョクシンカ	EN	EN		NT	→
アカバナ科	ウスゲチョウジタデ	EN	EN	NT	NT	→
アマモ科	コアマモ	EN	EN		NT	→
ゴマノハグサ科	サワトウガラシ	EN	EN		VU	→
オトギリソウ科	ツキヌキオトギリ	EN	EN	EN	VU	→
カヤツリグサ科	オオクゲ	EN	EN	NT	EN	→
カヤツリグサ科	キノクニスゲ	EN	EN	NT	NT	→
カヤツリグサ科	シラコスゲ	EN	EN		NT	→
カヤツリグサ科	ヌカスゲ	EN	EN			→
カヤツリグサ科	ハナビスゲ	EN	EN	VU	VU	→
カヤツリグサ科	ヤリテンツキ	EN	EN	NT	NT	→
キク科	ウスベニニガナ	EN	EN			→
キク科	ヒナヒゴタイ	EN	EN	EN	VU	→
ユリ科	ナガサキギボウシ	EN	EN	VU	EN	→
ゴマノハグサ科	ゴマノハグサ	EN	EN	VU	EN	→
タデ科	シマヒメタデ	EN	EN		NT	→
ツツジ科	シャクジョウソウ	EN	EN		VU	→
ツツジ科	ツクシシャクナゲ	CR	EN		VU	↓
トチカガミ科	スズタ	EN	EN	VU	NT	→
ナス科	イガホオズキ	EN	EN		VU	→
ナス科	メジロホオズキ	EN	EN		NT	→
ベンケイソウ科	ツシマンネングサ	EN	EN			→
ホシクサ科	ニッポソイヌヒゲ	EN	EN			→
ホンゴウソウ科	ウエマツソウ	EN	EN	VU	EN	→
ホンゴウソウ科	ホンゴウソウ	EN	EN	VU	VU	→
ミクリ科	ヤマトミクリ	EN	EN	NT	NT	→
ムラサキ科	オオルリソウ	EN	EN		VU	→
ヤシ科	ビロウ	EN	EN			→
ユキノシタ科	ツクシネコノメソウ	EN	EN			→
ラン科	クモキリソウ	EN	EN			→
ラン科	サイハイラン	EN	EN			→
ラン科	シュスラン	EN	EN			→
ラン科	ヒナラン	EN	EN	EN	VU	→
ラン科	ボウラン	EN	EN	NT	NT	→
ラン科	ムヨウラン	EN	EN		NT	→
ラン科	ヤクシマネツタイラン	EN	EN	EN	CR	→

小計 36 種

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アオイ科	ハマボウ	VU	VU		NT	→
アカネ科	ヘツカニガキ	VU	VU			→
イソマツ科	ハマサジ	VU	VU	NT	NT	→
イバラモ科	オオトリゲモ	VU	VU		EN	→
ウマノスズクサ科	アケボノアオイ	EN	VU	VU	VU	↓
オオバコ科	イヌノフグリ	VU	VU	VU	VU	→
オオバコ科	ホソバヒメトラノオ	CR	VU	EN	NT	↓
オトギリソウ科	コウライトモエソウ	EN	VU	VU	VU	↓
ガガイモ科	フナバラソウ	VU	VU	VU	NT	→
ガガイモ科	ロクオンソウ(ヒゴビャクゼン)	EN	VU	VU	NT	↓
カヤツリグサ科	オオハリイ		VU		VU	新
カヤツリグサ科	キシュウナキリスゲ	VU	VU	VU	VU	→
カヤツリグサ科	コウボウムギ	VU	VU		NT	→
カヤツリグサ科	タイワンスゲ	VU	VU	VU	VU	→
キク科	イズハハコ(ワタナ)	VU	VU	VU	NT	→
キク科	ウラギク	VU	VU	NT	NT	→
キク科	タウコギ	VU	VU			→
キョウチクトウ科	サカキカズラ	VU	VU			→
ケシ科	シマキケマン	VU	VU		NT	→
シバナ科	シバナ	VU	VU	NT	NT	→
スミレ科	ツクシスミレ	VU	VU		VU	→
タヌキモ科	イヌタヌキモ	VU	VU	NT	VU	→
ツツラフジ科	ミヤコジマツツラフジ	VU	VU			→
トチカガミ科	ミズオオバコ	VU	VU	VU	NT	→
トチカガミ科	ヤナギスブタ	VU	VU		NT	→
ハマウツボ科	キヨスミウツボ	VU	VU			→
ヒガンバナ科	オオキツネノカミソリ	VU	VU			→
ヒガンバナ科	ムジナノカミソリ	EN	VU	EW	VU	↓
ヒナノシャクジョウ科	ヒナノシャクジョウ	VU	VU		NT	→
ヒルムシロ科	ホソバミズヒキモ	VU	VU			→
フウチョウソウ科	ギョボク	VU	VU		VU	→
ミズキ科	ハナイカダ	VU	VU			→
ミソハギ科	ヒメミソハギ	VU	VU		NT	→
モウセンゴケ科	モウセンゴケ	EN	VU		NT	↓
ラン科	エビネ	EN	VU	NT	VU	↓
ラン科	カキラン	VU	VU		NT	→
ラン科	キエビネ	CR	VU	EN	VU	↓
ラン科	キンラン	VU	VU	VU	VU	→
ラン科	ギンラン	VU	VU		NT	→
ラン科	シラン	VU	VU	NT	VU	→
ラン科	ナギラン	VU	VU	VU	VU	→
ラン科	ニラバラン	VU	VU			→
ラン科	ミズトンボ	VU	VU	VU	NT	→

小計

43 種

準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アジサイ科	バイカアマチャ	NT	NT			→
アブラナ科	コイヌガラシ	NT	NT	NT	NT	→
アヤメ科	ヒオウギ	NT	NT			→
イグサ科	ヒメコウガイゼキショウ	NT	NT		NT	→
イネ科	ウンヌケモドキ	NT	NT	NT	VU	→
イネ科	オニシバ	NT	NT			→
イネ科	コササキビ	NT	NT		NT	→

イネ科	スズメノコビエ	NT	NT			→
イネ科	セイコノヨシ	NT	NT			→
イネ科	ヒゲシバ	NT	NT		NT	→
イネ科	ミノボロ	NT	NT		NT	→
イラクサ科	アラゲサンショウソウ	EN	NT	EN	NT	↓
ガガイモ科	スズサイコ	NT	NT	NT	NT	→
カヤツリグサ科	イトテンツキ	NT	NT	NT	NT	→
カヤツリグサ科	イトハナビテンツキ	NT	NT			→
カヤツリグサ科	タニガワスゲ	NT	NT			→
カヤツリグサ科	ノグサ	NT	NT			→
カヤツリグサ科	ヒカゲスゲ	NT	NT			→
カヤツリグサ科	フサスゲ	NT	NT			→
キキョウ科	ツルギキョウ	NT	NT	VU	NT	→
キンバイザサ科	コキンバイザサ	NT	NT		NT	→
クマツヅラ科	ダンギク	NT	NT	VU	NT	→
ゴマノハグサ科	カワヂシャ	NT	NT	NT	NT	→
シソ科	ミゾコウジュ	NT	NT	NT	NT	→
シソ科	ヤマジソ	NT	NT	NT	NT	→
セリ科	ハマボウフウ	VU	NT		NT	↓
ドクダミ科	ハンゲショウ	NT	NT			→
ヒガンバナ科	ハマオモト	NT	NT			→
ブドウ科	ウドカズラ	NT	NT			→
ベンケイソウ科	ツメレンゲ	VU	NT	NT	NT	↓
ホシクサ科	イトイヌノヒゲ	NT	NT			→
ホシクサ科	シロイヌノヒゲ	NT	NT			→
マツモ科	マツモ	NT	NT			→
マメ科	ハカマカズラ	NT	NT			→
モウセンゴケ科	コモウセンゴケ	NT	NT		NT	→
ユリ科	ツクシショウジョウバカマ	NT	NT			→
ユリ科	ニシノハマカンゾウ	NT	NT			→
ユリ科	ノヒメユリ	NT	NT	EN	NT	→
ラン科	ミヤマウスラ	NT	NT			→
リンドウ科	ムラサキセンブリ	NT	NT	NT	NT	→

小計 40 種

### 情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イグサ科	ドロイ	DD	DD		NT	→
キク科	アキノハハコグサ	DD	DD	EN	DD	→
キク科	ウラジロヤナギアザミ	DD	DD			→
ゴマノハグサ科	ゴマクサ	DD	DD	VU	EN	→
タデ科	ヤナギヌカボ	DD	DD	VU	NT	→
ツヅラフジ科	イソヤマアオキ	DD	DD		NT	→
ニシキギ科	コクテンギ	DD	DD		VU	→
ラン科	ユウシュンラン	DD	DD	VU	EN	→

小計 8 種

種子植物の計 181 種



シダ植物

絶滅種(EX)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イノモトソウ科	タキミシダ	CR	EX	EN	CR	↑
オシダ科	ツクシオオクジャク	EN	EX			↑
サンショウモ科	アカウキクサ	CR	EX	EN	EN	↑
サンショウモ科	オオアカウキクサ	EN	EX	EN	VU	↑
ヒカゲノカズラ科	ナンカクラン		EX		EX	新

小計 5 種

絶滅危惧 I A類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ホングウシダ科	エダウチホングウシダ	CR	CR		VU	→
イノモトソウ科	ミズワラビ		CR		EN	新
イノモトソウ科	ヤワラハチジョウシダ	CR	CR	EN	VU	→
メシダ科	サカバサトメシダ	CR	CR	VU	VU	→
メシダ科	ヒメノコギリシダ	CR	CR	NT	CR	→
メシダ科	ヒロハノコギリシダ	CR	CR		VU	→
メシダ科	フクレギシダ		CR	CR	CR	新
ウラジロ科	カネコシダ	CR	CR	VU	EN	→
オシダ科	イワイタチシダ	VU	CR			↑
オシダ科	ニセヨゴレイタチシダ	CR	CR	NT	CR	→
オシダ科	ホウノカワシダ		CR			新
キジノオシダ科	コスギダニキジノオ		CR			新
コケシノブ科	オオハイホラゴケ		CR		CR	新
チャセンシダ科	ヤクシマホウビシダ		CR		CR	新
デンジソウ科	デンジソウ	CR	CR	VU	VU	→
ハナヤスリ科	ハマハナヤスリ	CR	CR		EN	→
ヒメシダ科	アミシダ	CR	CR		VU	→
ヒメシダ科	ヒメミゾシダ	CR	CR	NT	EN	→
ヘゴ科	ヘゴ	CR	CR		EN	→
ミズニラ科	オオバシナミズニラ	CR	CR	EN	CR	→
ヤブレガサウラボシ科	スジヒツツバ	CR	CR		VU	→
リュウビンタイ科	リュウビンタイ	CR	CR		VU	→

小計 22 種

絶滅危惧 I B類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イノモトソウ科	エビガラシダ	EN	EN	VU	VU	→
ウラボシ科	イワヤナギシダ	EN	EN			→
ウラボシ科	コウラボシ	EN	EN			→
メシダ科	ニセコクモウクジャク	CR	EN		NT	↓
オシダ科	ミサキカグマ	EN	EN			→
コケシノブ科	ツルホラゴケ	EN	EN		VU	→
シノブ科	シノブ	EN	EN			→
ヒメシダ科	ケホシダ	CR	EN		NT	↓
ヒメシダ科	ミドリヒメワラビ		EN		NT	新
マツバラン科	マツバラン	EN	EN	NT	VU	→

小計 10 種

絶滅危惧 II類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イノモトソウ科	ハマホラシノブ	VU	VU			→
オシダ科	ツクシイワヘゴ	VU	VU			→
オシダ科	ナチクジャク	VU	VU			→

ゼンマイ科	シロヤマゼンマイ	VU	VU			→
チャセンシダ科	イヌチャセンシダ	VU	VU			→
チャセンシダ科	シモツケヌリトラノオ	VU	VU		VU	→
チャセンシダ科	トキワトラノオ	VU	VU		NT	→
ヒカゲノカズラ科	ヒモヅル	VU	VU	VU	VU	→
ヒメシダ科	テツホシダ	VU	VU		NT	→
ヒメシダ科	ヒメハシゴシダ	EN	VU		NT	↓

小計 10 種

#### 準絶滅危惧種 (NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イノモトソウ科	ヒメウラジロ	VU	NT	VU	NT	↓
ゼンマイ科	ヤマドリゼンマイ	VU	NT			↓

小計 2 種

#### 情報不足 (DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウラボシ科	ヤノネシダ	DD	DD		EN	→

小計 1 種

シダ植物の計 50 種

#### 4. 哺乳類

##### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
キクガシラコウモリ科	キクガシラコウモリ	EN	EN		NT	→
キクガシラコウモリ科	コキクガシラコウモリ	EN	EN		NT	→
ヒナコウモリ科	ヤマコウモリ	EN	EN	VU	VU	→

小計 3 種

##### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イヌ科	キツネ	VU	VU		NT	→
ネズミ科	カヤネズミ	VU	VU		NT	→

小計 2 種

##### 準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
トガリネズミ科	ニホンジネズミ	NT	NT			→
イタチ科	イタチ	NT	NT		NT	→

小計 2 種

哺乳類の計 7 種

## 5. 鳥類

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウミスズメ科	ウミスズメ	CR	CR	CR	CR	→
カワセミ科	ヤマセミ	VU	CR		CR	↑
サギ科	オオヨシゴイ	CR	CR	CR	CR	→
サギ科	カラシラサギ	CR	CR	NT	CR	→
シギ科	コシャクシギ	CR	CR	EN	CR	→
フクロウ科	アオバズク	CR	CR		NT	→
ホオジロ科	シマアオジ	CR	CR	CR	EN	→
モズ科	アカモズ	CR	CR	EN	CR	→
モズ科	チゴモズ	CR	CR	CR	CR	→
ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	CR	CR	EN	CR	→

小計 10 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウ科	ヒメウ	EN	EN	EN	EN	→
ウグイス科	ウチヤマセンニュウ	EN	EN	EN	EN	→
ウグイス科	キクイタダキ	NT	EN		EN	↑
ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	EN	EN	VU	VU	→
カモ科	トモエガモ	EN	EN	VU	VU	→
カワガラス科	カワガラス	NT	EN		VU	↑
カワセミ科	アカショウビン	NT	EN		VU	↑
キジ科	アカヤマドリ	NT	EN	NT	NT	↑
サギ科	ミゾゴイ	EN	EN	VU	VU	→
サンショウクイ科	サンショウクイ	EN	EN	VU	VU	→
タカ科	オオタカ	EN	EN	NT	NT	→
ツバメチドリ科	ツバメチドリ	EN	EN	VU	CR	→
ハヤブサ科	ハヤブサ	EN	EN	VU	VU	→
ブッポウソウ科	ブッポウソウ	EN	EN	EN	CR	→
ヨタカ科	ヨタカ	VU	EN	NT	EN	↑

小計 15 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
カササギヒタキ科	サンコウチョウ	VU	VU		VU	→
カモ科	オカヨシガモ	NT	VU		NT	↑
カモ科	ヨシガモ	NT	VU		NT	↑
クイナ科	クイナ	NT	VU		VU	↑
クイナ科	ヒクイナ	NT	VU	NT	NT	↑
サギ科	クロサギ	VU	VU		NT	→
シギ科	ヤマシギ	NT	VU		NT	↑
セイタカシギ科	セイタカシギ	VU	VU	VU	VU	→
タカ科	サシバ	VU	VU	VU	VU	→
チドリ科	コチドリ	NT	VU		NT	↑
ツル科	ナベヅル	VU	VU	VU	VU	→
ツル科	マナヅル	VU	VU	VU	VU	→

小計 12 種

準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アビ科	アビ	DD	NT		NT	↑
アビ科	オオハム	DD	NT		NT	↑
ウグイス科	オオヨシキリ	NT	NT			→
ウグイス科	ヤブサメ	NT	NT			→
カッコウ科	カッコウ	NT	NT			→
カラス科	カケス	NT	NT			→
カワセミ科	ヤマショウビン	DD	NT			↑
サギ科	アカガシラサギ	DD	NT		NT	↑
サギ科	ササゴイ	DD	NT		NT	↑
サギ科	チュウサギ	NT	NT	NT	NT	→
タカ科	ハイタカ	NT	NT	NT	NT	→
タカ科	ハチクマ	NT	NT	NT	NT	→
タカ科	ミサゴ	NT	NT	NT	NT	→
ツバメ科	コシアカツバメ	NT	NT			→
ハト科	カラスバト	NT	NT	NT	NT	→
ヒタキ科	キビタキ	NT	NT		EN	→
フクロウ科	キュウシュウフクロウ	NT	NT		NT	→
ホオジロ科	ノジコ	NT	NT	NT	NT	→
ミソサザイ科	ミソサザイ	NT	NT		NT	→
ヤツガシラ科	ヤツガシラ	NT	NT			→

小計 20 種

情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
タカ科	ツミ		DD		NT	新

小計 1 種

鳥類の計 58 種

## 6. 爬虫類

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウミガメ科	アカウミガメ	CR	CR	EN	EN	→

小計 1 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
イシガメ科	ニホンイシガメ	EN	EN	NT	EN	→
ヤモリ科	ヤクヤモリ	EN	EN	VU	EN	→

小計 2 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
タカチホヘビ科	タカチホヘビ		VU		NT	新
ヤモリ科	ニシヤモリ	VU	VU		NT	→

小計 2 種

### 準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ナミヘビ科	アオダイショウ	NT	NT			→
ナミヘビ科	シロマダラ	NT	NT		NT	→
ナミヘビ科	ジムグリ	NT	NT			→
ヌマガメ科	クサガメ	NT	NT			→

小計 4 種

### 情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
スッポン科	ニホンスッポン	DD	DD	DD	DD	→

小計 1 種

爬虫類の計 10 種

## 7. 両生類

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アカガエル科	トノサマガエル	CR	CR	NT	CR	→

小計 1 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
サンショウウオ科	ブチサンショウウオ		EN	NT	EN	新

小計 1 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アカガエル科	ニホンアカガエル	VU	VU		NT	→
サンショウウオ科	カスミサンショウウオ	VU	VU	VU	VU	→

小計 2 種

### 準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アオガエル科	カジカガエル	NT	NT		NT	→
イモリ科	アカハライモリ	NT	NT	NT	NT	→
ヒキガエル科	ニホンヒキガエル	NT	NT		NT	→

小計 3 種

両生類の計 7 種

## 8. 淡水性魚類

### 絶滅(EX)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
トゲウオ科	ニホンイトヨ	EX	EX		EX	→

小計 1 種

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウナギ科	オオウナギ	CR	CR		DD	→
ハゼ科	イドミミズハゼ	CR	CR	NT	NT	→
ハゼ科	オオヨシノボリ	CR	CR		NT	→
ハゼ科	タビラクチ	CR	CR	VU	VU	→
ハゼ科	トビハゼ	CR	CR	NT	VU	→

小計 5 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ドジョウ科	ドジョウ	EN	EN	DD	NT	→
ナマズ科	ナマズ	EN	EN			→
ハゼ科	クボハゼ	CR	EN	EN	NT	↓
ハゼ科	タネハゼ	EN	EN		NT	→
ハゼ科	チクゼンハゼ	CR	EN	VU	VU	↓
ハゼ科	ヒモハゼ	CR	EN	NT	NT	↓

小計 6 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ハゼ科	クロコハゼ	EN	VU		NT	↓
ハゼ科	ゴマハゼ	VU	VU	VU	NT	→
ハゼ科	ボウズハゼ	VU	VU		VU	→
ハゼ科	マサゴハゼ	VU	VU	VU	NT	→
ハゼ科	ルリヨシノボリ	VU	VU		VU	→
メダカ科	ミナミメダカ(メダカ南日本集団)	VU	VU	VU	NT	→

小計 6 種

### 準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アユ科	アユ	NT	NT			→
カワアナゴ科	カワアナゴ	NT	NT		NT	→
コイ科	タカハヤ	NT	NT			→



ドンコ科	ドンコ	VU	NT			↓
ハゼ科	ウキゴリ	NT	NT			→
ハゼ科	シロウオ	NT	NT	VU	NT	→
ハゼ科	ビリンゴ	NT	NT			→
ハゼ科	ヌマチチブ	NT	NT			→
ユゴイ科	ユゴイ	NT	NT		NT	→

小計 9 種

情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
ウナギ科	ニホンウナギ		DD	EN	DD	新
カワアナゴ科	チチブモドキ	DD	DD		NT	→
フエダイ科	ゴマフエダイ	DD	DD			→

小計 3 種

淡水性魚類の計 30 種

## 9. 昆虫類

### 絶滅(EX)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
カミキリムシ科	トゲムネミヤマカミキリ	NT	EX		CR	↑
クワガタムシ科	チビクワガタ	NT	EX			↑
タテハチョウ科	オオウラギンヒョウモン	CR	EX	CR	EN	↑

小計 3 種

### 絶滅危惧 I A類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アメンボ科	ウミアメンボ	CR	CR		CR	→
イトトンボ科	コフキヒメイトトンボ	VU	CR		CR	↑
カミキリムシ科	サタサビカミキリ(野母 崎亜種)	CR	CR		CR	→
ガムシ科	ガムシ		CR	NT	VU	新
ガムシ科	コガタガムシ		CR	VU	EN	新
ガロアムシ科	イシイムシ	CR	CR	EN	EN	→
キリギリス科	ヒサゴクサキリ	CR	CR			→
ゲンゴロウ科	シャープツブゲンゴロウ		CR	NT	CR	新
ゲンゴロウ科	チビマルケシゲンゴロウ		CR	NT	EN	新
コガネムシ科	アカマダラコガネ	VU	CR	DD	CR	↑
コガネムシ科	シロスジコガネ	DD	CR		NT	↑
コガネムシ科	ヤマトアオドウガネ	CR	CR			→
シジミチョウ科	シルビアシジミ	EN	CR	EN	VU	↑
シジミチョウ科	台湾ツバメシジミ(本 土亜種)	CR	CR	EN	EN	→
セセリチョウ科	オオチャバネセセリ	EN	CR		EN	↑
タテハチョウ科	オオウラギンスジヒョウモン	VU	CR		CR	↑
タテハチョウ科	ヒオドシチョウ	EN	CR		VU	↑
タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	VU	CR			↑
タマムシ科	クロマダラタマムシ	VU	CR			↑
タマムシ科	ミスジツブタマムシ	EN	CR		VU	↑
トンボ科	ハッチョウトンボ	CR	CR		CR	→
ヤンマ科	ネアカヨシヤンマ	VU	CR	NT	VU	↑

小計 22 種

### 絶滅危惧 I B類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
カミキリムシ科	クスベニカミキリ	EN	EN		NT	→
カミキリムシ科	台湾メダカカミキリ	CR	EN			↓
カミキリムシ科	ブドウトラカミキリ	VU	EN		EN	↑
カミキリムシ科	ヨツボシカミキリ	VU	EN	EN	EN	↑
クワガタムシ科	ネプトクワガタ	VU	EN			↑
クワガタムシ科	マメクワガタ	EN	EN			→
コガネムシ科	アオカナブン	EN	EN			→
コガネムシ科	ニセマゲソコガネ		EN		EN	新
コガネムシ科	ミツノエンマコガネ	EN	EN			→
コツブゲンゴロウ科	ムツボシツヤコツブゲ ンゴロウ		EN	VU	EN	新

コメツキムシ科	ハマベオオヒメサビキコリ	CR	EN			↓
シロチョウ科	ツマグロキチョウ	EN	EN	EN		→
セセリチョウ科	ヒメキマダラセセリ	EN	EN		EN	→
セセリチョウ科	ミヤマセセリ	EN	EN		EN	→
タイコウチ科	ヒメミズカマキリ		EN		NT	新
タテハチョウ科	ジャノメチョウ	CR	EN			↓
タマムシ科	アヤムナビロタマムシ	EN	EN			→
ハムシ科	カツラネクイハムシ		EN		CR	新
ヤンマ科	サラサヤンマ	CR	EN		EN	↓

小計 19 種

絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アメンボ科	エサキアメンボ		VU	NT	EN	新
アメンボ科	シロウミアメンボ		VU	VU	VU	新
イトトンボ科	ベニイトトンボ	NT	VU	NT	NT	↑
エゾトンボ科	タカネトンボ	VU	VU		NT	→
オサムシ科	イソチビゴミムシ		VU	NT	VU	新
オサムシ科	ウミミズギワゴミムシ		VU	NT	VU	新
カッコウムシ科	ヤマトヒメメダカカッコウムシ		VU		VU	新
カミキリムシ科	ベーツヒラタカミキリ	VU	VU		VU	→
ガムシ科	マルヒラタガムシ		VU	NT	VU	新
カメムシ科	トビイロカメムシの一種	CR	VU			↓
ゲンゴロウ科	キベリクロヒメゲンゴロウ		VU	NT	VU	新
ゲンゴロウ科	クロゲンゴロウ		VU	NT	VU	新
ゲンゴロウ科	ヒコサンセスジゲンゴロウ		VU		EN	新
コガネムシ科	キマダラマグソコガネ		VU		CR	新
コガネムシ科	コカブトムシ	EN	VU			↓
コガネムシ科	ヤマトケシマグソコガネ		VU		VU	新
コガネムシ科	ヨツバコガネ		VU		NT	新
コメツキムシ科	スナサビキコリ		VU		NT	新
サナエトンボ科	オナガサナエ	CR	VU		EN	↓
サナエトンボ科	ヒメクロサナエ	VU	VU		VU	→
シジミチョウ科	クロツバメシジミ(九州沿岸・朝鮮半島亜種)	CR	VU	NT	NT	↓
シジミチョウ科	ゴイシシジミ	EN	VU			↓
シジミチョウ科	コツバメ	VU	VU		NT	→
セセリチョウ科	コチャバナセセリ	VU	VU			→
セミ科	ハルゼミ	CR	VU		EN	↓
タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン	NT	VU	VU	EN	↑
タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	VU	VU		VU	→
タテハチョウ科	クモガタヒョウモン	VU	VU		EN	→
タテハチョウ科	コムラサキ	VU	VU		NT	→
タマムシ科	アオマダラタマムシ	VU	VU		NT	→
テントウムシ科	ヤマトヒメテントウ		VU		NT	新
トンボ科	チョウトンボ	EN	VU			↓
トンボ科	ナツアカネ	VU	VU			→
トンボ科	ヒメアカネ	VU	VU		NT	→
ホタル科	ヘイケボタル	NT	VU		VU	↑
ミズスマシ科	ヒメミズスマシ		VU	EN	VU	新
ミズスマシ科	ミズスマシ		VU	VU	VU	新
ヤンマ科	コシボソヤンマ	CR	VU		NT	↓

小計 38 種

準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリ	新 カテゴリ	環境省 カテゴリ	県 カテゴリ	変更点
アメンボ科	シオアメンボ		NT	VU	CR	新
イトトンボ科	キイトンボ		NT		NT	新
イトトンボ科	ムスジイトンボ		NT		NT	新
オサゾウムシ科	オオシロオビゾウムシ		NT		NT	新
オサムシ科	エゾカタビロオサムシ	NT	NT			→
オサムシ科	タナカツヤハネゴミムシ		NT	DD	DD	新
オサムシ科	ツツイキバナガミズギワゴミムシ		NT	NT	NT	新
オサムシ科	ヒトツメアオゴミムシ		NT	NT		新
オサムシ科	マイマイカブリ	NT	NT			→
カスミカメムシ科	ソデフリカスミカメ		NT			新
カミキリムシ科	ベニバハナカミキリ	NT	NT			→
ガムシ科	スジヒラタガムシ		NT	NT	NT	新
ガムシ科	ミュキシジミガムシ		NT	NT	NT	新
カメムシ科	アカギカメムシ		NT			新
カメムシ科	オオキンカメムシ		NT			新
ミズカメムシ科	ウミミズカメムシ		NT			新
クワガタムシ科	スジクワガタ	VU	NT			↓
ゲンゴロウ科	オオマルケシゲンゴロウ		NT	NT	NT	新
ゲンゴロウ科	コガタノゲンゴロウ		NT	VU	NT	新
ゲンゴロウ科	テンメルマンセスジゲンゴロウ		NT		NT	新
ゲンゴロウ科	ホソクロマメゲンゴロウ		NT		VU	新
コオイムシ科	コオイムシ	CR	NT	NT	EN	↓
コオロギ科	ハマズ	NT	NT			→
コガシラミズムシ科	キイロコガシラミズムシ		NT	VU	VU	新
コガネムシ科	キュウシュウカクマグソコガネ		NT			新
ゴキブリ科	マダラゴキブリ	NT	NT			→
コメツキムシ科	タテスジカネコメツキ		NT			新
コメツキモドキ科	ニホンホホビロコメツキモドキ		NT			新
シジミチョウ科	ミズイロオナガシジミ	NT	NT		VU	→
シロチョウ科	ツマキチョウ	NT	NT			→
セセリチョウ科	ダイミョウセセリ	VU	NT			↓
セセリチョウ科	ホソバセセリ	NT	NT		NT	→
タイコウチ科	タイコウチ		NT		NT	新
タイコウチ科	ミズカマキリ		NT		NT	新
タテハチョウ科	ウラナミジャノメ	NT	NT	VU	NT	→
タテハチョウ科	スミナガシ	NT	NT		NT	→
タテハチョウ科	メスグロヒョウモン	NT	NT			→
タマムシ科	ヤマトタマムシ	NT	NT			→
トンボ科	マイコアカネ	NT	NT		NT	→
ハムシ科	キアシネクイハムシ		NT			新
ホタル科	ゲンジボタル	NT	NT			→
ホタル科	ヒメボタル		NT		VU	新
ミズスマシ科	オオミズスマシ		NT	NT	NT	新
ミズスマシ科	オナガミズスマシ		NT		CR	新
ムカシトンボ科	ムカシトンボ	VU	NT		VU	↓

小計 45 種

情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリ	新 カテゴリ	環境省 カテゴリ	県 カテゴリ	変更点
オオキノコムシ科	ハスジオオキノコムシ	CR	DD		NT	↓
ゲンゴロウ科	コマルケシゲンゴロウ		DD	NT	DD	新
ゲンゴロウ科	マルケシゲンゴロウ		DD	NT	DD	新
ヤガ科	ウスイロキシタバ		DD			新
ヤママユガ科	ウスタバガ		DD			新

小計 5 種

昆虫類の計 131 種

## 10. 剣尾類・十脚甲殻類

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
カブトガニ科	カブトガニ	CR	CR	CR+EN	EN	→
テナガエビ科	シラタエビ	CR	CR		VU	→
モクズガニ科	ハマガニ	CR	CR	NT	EN	→

小計 3 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
オサガニ科	オサガニ	EN	EN	NT	NT	→
ベンケイガニ科	ウモレベンケイガニ	EN	EN	VU	NT	→
ベンケイガニ科	クシテガニ	EN	EN	NT	VU	→
ムツハアリアケガニ科	ムツハアリアケガニ	EN	EN	NT	EN	→
モクズガニ科	ヒメアシハラガニ	EN	EN	NT	NT	→

小計 5 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
テナガエビ科	テナガエビ	VU	VU		NT	→
スナガニ科	ハクセンシオマネキ	VU	VU	VU	NT	→
ベンケイガニ科	フジテガニ	DD	VU	NT	NT	↑

小計 3 種

### 準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
オサガニ	ヒメヤマトオサガニ		NT	NT	NT	新
コメツキガニ科	コメツキガニ		NT		NT	新
ヌマエビ科	ヒメヌマエビ	NT	NT		VU	→
ヌマエビ科	ヤマトヌマエビ	NT	NT		NT	→
ムツハアリアケガニ科	カワスナガニ	VU	NT	NT	VU	↓
モクズガニ科	ミナミアシハラガニ	NT	NT	NT	NT	→

小計 6 種

### 情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
オサガニ科	ヤマトオサガニ		DD		NT	新
コブシガニ科	カネココブシガニ	DD	DD	DD	DD	→
テナガエビ科	イッテンコテナガエビ	DD	DD		VU	→
モクズガニ科	タイワンオオヒライソガニ		DD	DD		新
モクズガニ科	トゲアシヒライソガニモドキ	DD	DD		DD	→

小計 5 種

剣尾類・十脚甲殻類の計 22 種

## 11. 淡水性貝類

### 絶滅(EX)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
フネガイ科	ハイガイ	EX	EX	VU	CR	→

小計 1 種

### 絶滅危惧ⅠA類(CR)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
オカミミガイ科	オカミミガイ	CR	CR	VU	VU	→
オカミミガイ科	オキヒラシイノミ	CR	CR	CR+EN	CR	→
オカミミガイ科	キヌカツギハマシイノミガイ	CR	CR	VU	CR	→
オカミミガイ科	クリイロコミミガイ	CR	CR	VU	CR	→
シオサザナミ科	フジナミガイ	CR	CR	CR+EN	VU	→
ツキガイ科	イセシラガイ	CR	CR	CR+EN	CR	→
ドロアワモチ科	ドロアワモチ	CR	CR	VU	EN	→
ニシキウズガイ科	イボキサゴ	CR	CR	NT	VU	→
ニッコウガイ科	イチョウシラトリ	CR	CR	CR+EN	EN	→
フネアマガイ科	フネアマガイ	CR	CR			→
マルスダレガイ科	ウスハマグリ	CR	CR	CR+EN	EN	→
マルスダレガイ科	ハマグリ	CR	CR	VU	EN	→
ミスゴマツボ科	ミスゴマツボ	CR	CR	VU	EN	→

小計 13 種

### 絶滅危惧ⅠB類(EN)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アマオブネガイ科	ヒロクチカノコ	EN	EN	NT	EN	→
タニシ科	マルタニシ	EN	EN	VU	VU	→
バカガイ科	ユキガイ	EN	EN	NT	EN	→
マルスダレガイ科	イオウハマグリ	EN	EN	VU	VU	→

小計 4 種

### 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

科名	和名	旧 カテゴリー	新 カテゴリー	環境省 カテゴリー	県 カテゴリー	変更点
アマオブネガイ科	ヒメカノコ	EN	VU	NT		↓
ウミナ科	イボウミナ	EN	VU	VU	CR	↓
オカミミガイ科	ナラビオカミミガイ	EN	VU	VU	EN	↓
オニツノガイ科	ホソコオロギ		VU	CR+EN	VU	新
シオサザナミ科	ハザクラ	VU	VU	NT	NT	→
トウガタカワニナ科	タケノコカワニナ	VU	VU	VU	EN	→
ドブシジミ科	ドブシジミの一種	VU	VU		DD	→
フトヘナタリ科	カワアイ	VU	VU	VU	VU	→
マルスダレガイ科	シオヤガイ	VU	VU	NT	EN	→
ワカウラツボ科	ワカウラツボ		VU	VU	NT	新

小計 10 種

準絶滅危惧(NT)

科名	和名	旧 カテゴリ	新 カテゴリ	環境省 カテゴリ	県 カテゴリ	変更点
イガイ科	コケガラス		NT	NT	VU	新
イソマイマイ科	アラウズマキ		NT	VU	VU	新
ウミニナ科	ウミニナ	NT	NT	NT	VU	→
オオノガイ科	オオノガイ		NT	NT	NT	新
オカミミガイ科	ウスコミミガイ		NT	NT	VU	新
オカミミガイ科	シノミミガイ		NT	CR+EN	CR	新
オカミミガイ科	ナギサノシタタリ		NT			新
オニノツノガイ科	カヤノミカニモリ		NT	NT	EN	新
オニノツノガイ科	コゲツノブエガイ	NT	NT	VU	VU	→
シオサザナミ科	ムラサキガイ		NT	VU	EN	新
チドリマスオガイ科	クチバガイ	NT	NT	NT	NT	→
トウガタガイ科	シゲヤスイトカケギリ		NT	NT	NT	新
ニッコウガイ科	ユウシオガイ		NT	NT		新
ハボウキガイ科	ハボウキ		NT	NT	EN	新
ヒラマキガイ科	クルマヒラマキガイ(レンズヒラマキガイ)	NT	NT	VU	VU	→
ヒラマキガイ科	ヒラマキガイモドキ	NT	NT	NT	NT	→
フジノハナガイ科	ナミノコ		NT	NT	VU	新
フトヘナタリ科	フトヘナタリ	NT	NT	NT	NT	→
フトヘナタリ科	ヘナタリ	NT	NT	NT	VU	→
フナガタガイ科	ウネナシトマヤガイ	NT	NT	NT		→
マルスダレガイ科	ガンギハマグリ		NT	NT	NT	新
マルスダレガイ科	ケマンガイ		NT	NT	NT	新
マルスダレガイ科	シラオガイ		NT	NT	EN	新
マルスダレガイ科	オキシジミ	NT	NT			→
ミズゴマツボ科	エドガワミズゴマツボ(ウミゴマツボ)	NT	NT	NT	NT	→
ムシロガイ科	ムシロガイ		NT	NT	VU	新
ユキノカサガイ科	ツボミ	NT	NT	NT	NT	→
ユキスズメガイ科	ミヤコドリ	NT	NT	NT	NT	→
リソツボ科	スジウネリチョウジガイ		NT	VU	NT	新
ワカウラツボ科	カワグチツボ	NT	NT	NT	NT	→

小計 30 種

情報不足(DD)

科名	和名	旧 カテゴリ	新 カテゴリ	環境省 カテゴリ	県 カテゴリ	変更点
イシガイ科	ヌマガイ	DD	DD			→
エゾバイ科	オガイ		DD	CR+EN	CR	新
オカミミガイ科	マキシジコミミガイ		DD	NT	NT	新
キヌタアゲマキ科	キヌタアゲマキ		DD	NT	NT	新
シオサザナミ科	アシガイ		DD	NT		新
シオサザナミ科	アシベマスオ		DD	DD		新
シオサザナミ科	オチバ		DD	NT		新
シジミ科	マシジミ	DD	DD	VU	DD	→
ニッコウガイ科	ダイミョウガイ		DD	NT	EN	新
ニッコウガイ科	サクラガイ		DD	NT	NT	新
バイ科	バイ	DD	DD	NT	EN	→
ハボウキガイ科	タイラギ(リシケタイラギ)		DD	NT	EN	新
ヒラマキガイ科	ヒラマキミズマイマイ		DD	DD	DD	新
モノアラガイ科	コシダカヒメモノアラガイ		DD	DD	DD	新
モノアラガイ科	モノアラガイ	VU	DD	NT	VU	↓

小計 15 種

淡水性貝類の計 73 種

## 12. 地形・地質

### 選定基準1:日本の自然を代表する典型的かつ希少な地形地質

分類	所在地	名称 - 地質・地形 -	備考
岩石・鉱物	以下宿町 夫婦岩～黒浜町 綱掛岩《県天然記念物》 野母町 野母崎～小立神岩	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体)アクチノ閃石、角閃石、アキシナイト、緑簾石、緑泥石、トロンニウム岩、花崗岩質岩等を伴う。 野母オフィオライト付加体:アクチノ閃石、角閃石、緑泥石、アルマンディン等を伴う。	
	三京町 向海岸 三重海岸 変成鉱物の産地 西海町 松ノ迫	蛇紋岩メランジュ《県天然記念物》ひすい輝石、オンファス輝石、曹長岩、アクチノ閃石等を含有。	
	西海町 松ノ迫 琴海 石楠花峠	紅簾石、ブラウン鉱 砂質珪質片岩中に紅簾石。	
	晴海台町 西海岸通り(長瀬)	蛇紋岩メランジュ(スチルプノメレーン片麻岩)、スチルプノメレーン、曹長石、緑泥石、石英	
	川原町年崎東海岸 鎌田(1991)は礫質片岩として《県天然記念物》に指定。	蛇紋岩メランジュ《県天然記念物》。火山角礫岩片岩、パホイホイ溶岩片岩、凝灰岩片岩、変斑れい岩片岩、変花崗岩片岩などの中にアクチノ閃石、クロス閃石、クローム絹雲母、緑泥石、緑簾石、褐簾石、曹長石等を含有。	
	茂木町 小立石 茂木町 千鳥汀	周防帯(1.79億年前)の変花崗岩類・泥質片岩、結晶質石灰岩、緑泥石、石英、カリ長石、曹長石、白雲母等を含有。 変花崗岩類…千鳥漁港の海底に広く伏在。	
	岩石・層序	以下宿町 夫婦岩～黒浜町 綱掛岩 野母町 野母崎～小立神岩 野母オフィオライト付加体	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体=4.57～4.80億年)《県天然記念物》黒浜トンネル横の変斑れい岩を代表露頭として保存。 野母オフィオライト付加体(K-Ar年代=5.89～5.92億年前)が分布している。
大園町-虹が丘町 上揚峠		野母オフィオライト付加体が伏在。	
小瀬戸町 皇后島		皇后島北部から東部に野母オフィオライト付加体があり、中部から南部に皇后島付加体(変閃緑岩体～変花崗岩体が泥質片岩起源のマイロナイトメランジュ)を形成。	
蚊焼町タン崎-大川-南折山-鯨浜までの菱形内に分布。 《鯨浜の中間に野母オフィオライト付加体と蚊焼付加体の接触部と推定される構造岩塊がある》		蚊焼付加体(チャート質千枚岩メランジュ)は層厚約10～30cmのチャート質緑色千枚岩とチャート質黒色千枚岩の互層からなり周防帯に属すると考えられる。千枚岩の部分は混在岩状になっているがしばしば含まれる結晶質石灰岩(低変成度)は径50cmの円礫状ブロックのままである。	
三京町海岸		蛇紋岩メランジュにともなうヒスイ輝石岩・オンファス輝石岩(緑色)。 《県天然記念物》	
戸根町 戸根川支流の沢および民家の石垣に点在。		蛇紋岩メランジュに伴うヒスイ輝石岩(白色)《県天然記念物》1.2m×1.5m×0.7m大以上の岩塊で三京海岸のものより巨大。 《県天然記念物》	
西海町 松ノ迫 長浦町 石楠花峠		砂質片岩中に紅簾石片岩。 砂質珪質片岩中に紅簾石片岩。	
樺島町 百瀬 行者山登山口		黒雲母花崗岩、砂質片岩の接触変成帯、スチルプノメレーン片岩、磁鉄鉱片岩が分布している。	
脇岬町 長崎県亜熱帯植物園海岸		蛇紋岩メランジュ中に変斑れい岩、変閃緑岩、角閃岩等の構造岩塊が分布。	
三京町西海岸		砂質片岩を主とする低温高圧型西彼杵変成岩類の褶曲構造。 《県天然記念物》	



	北浦町赤崎鼻海岸 赤崎鼻付加体は付加体ごとに変成度がことなる。	赤崎鼻付加体はチャート付加体-斑礫岩付加体-泥質片岩付加体が三ツ瀬層下部にもぐり込んでいて、泥岩中に砂岩-泥岩混在層が生じている。	
	北浦町目長～赤崎鼻海岸	三ツ瀬層(上部白亜系)からアンモナイト、イノセラムス、ハドロサウルス(恐竜)、珪化木が産出。	
層序・鉱床	高島町端島	高島炭田端島炭坑跡と石炭、珪化木	
	高島町高島	高島炭田高島炭坑跡と石炭、珪化木	
	池島町	高島炭田高島炭坑跡と石炭、珪化木	
岩石・化石	高島町 二子島層 伊王島町 沖ノ島層	ナガオオオシジミ、Phaxas brevis (Nagao)、オウムガイ、キュウシュウハマグリ、ダイオウフミガイ、タカシマウミタケガイモドキ、ナガサキカコボラ、Volutospina japonica(Nagao).	
	伊王島町 伊王島層 伊王島町 大明寺層	ヒゼンザルガイ、角貝類 貝殻石灰岩、石灰藻石灰岩	
	茂木町片町 茂木植物化石層 茂木植物化石群 Tanai(1976)は、31科40属52種を識別したがこの中にはNathorst(1883)・Florin(1920)のリストにある単子葉類・菌類14種は含まれていない。 茂木植物化石群に識別された植物種はすべて絶滅種。 茂木植物化石層はざくろ石含有角閃石流紋岩質の水底軽石流堆積物で層厚:10.4m、FT年代は約570万年前である。 水底軽石流堆積物の基質には葉が筒状に丸まったまま炭化した特異な状態の化石が見られる。《県天然記念物》	メタセコイア、モギリヨウブ、ナトホルストシデ、ムカシサワシバ、シラギアサダ、ムカシブナ、ムカシエノキ、モギヘラノキ、チュウシンニレ、ムカシハルニレ、ムカシモクレン、ミトモクレン、モリタクス、ボケ類、サクラ類、ケクロモジ、ムカシヒメシヤラ、チュウシンフウ、ヤシャブシ、ムカシフジ、ピラカンサ、オノエムカシエンジュ、ムカシイタヤ、モギカエデ、タナイムクロジ、アワブキ、モギヘラノキ、サントウミズキ、ムカシハクウンボク、サワフタギ類、ムカシエゴノキ、サルトリイバラ。単子葉類としてダンチク類、ササ類、ススキ類等が挟在。《県天然記念物》	矢部長克・遠藤誠道(1930)はNathorst(1883)およびFlorin(1920)のリストを検討して茂木化石植物群を鮮新世としたが、喜々津植物化石層下部層(上部層は鮮新世)と共に中新世後期に属すると推定。
岩石・地形	小ヶ倉町二丁目小ヶ倉団地裏	野母変成岩類泥質片岩と三ツ瀬層間は断層(スラスト)関係。三ツ瀬層中にΣ型横臥褶曲が形成されている。 東→横圧力 《県天然記念物》	
	牧島町戸ヶ瀬西海岸 長崎火山岩類からなる角閃石複輝石安山岩質水底軽石流堆積物	戸ヶ瀬の浅海底に生じた海底火山の火口縁に堆積していた泥質物が斜面崩壊をおこして安山岩質重力流球状岩塊(直径2m)となって堆積。	
地形	池島町 大角力(高さ77.0m) 式見町 神楽島(高さ75.5m)	野々岳安山岩類の火山岩頸と海食洞 神楽島サヌキトイドの火山岩頸と海食洞	
	脇岬町 棚瀬 野母町 野母漁港入り口	脇岬ビーチロック(脇岬礫岩) 畔津ビーチロック(畔津礫岩)	
	柿泊町 白浜海水浴場 北浦町 目長	笠岩・傘岩 ドンク岩	
	脇岬町 脇津(弁天山) 脇岬町 岬 脇岬町 岬 観音寺前	脇岬西陸繋砂州(脇岬西トンボロー)、脇岬海岸砂丘 脇津陸繋島=弁天山陸繋島 岬潟湖(岬ラグーン) 脇津+岬=脇岬	
小計 53地点 176件			

選定基準2: 地学・自然地理学の教育および研究上、注目した方がよいと考えられる地形地質

分類	所在地	名称 - 地質・地形 -	備考
岩石・鉱物	西海町 松ノ迫	西彼杵変成岩類砂質片岩＝紅簾石-緑泥石-白雲母-石英片岩	
	長浦町 石楠花峠	西彼杵変成岩類珪質片岩＝紅簾石-緑泥石-白雲母-石英片岩	選定基準4
	神浦下大中尾町 神浦ダム東部	西彼杵変成岩類砂質片岩＝緑簾石-緑泥石-角閃石-曹長石片岩中にクロス閃石含有オリブ色ドロマイト-柱状岩塊(長さ40cm、直径20cm)を挟在	選定基準4
	神浦上大中尾町	西彼杵変成岩類蛇紋岩中の断層に沿って形成された層厚約30cmの滑石片岩中に作成途中の未完成石鍋レリーフが多数見られる。ホグgett石鍋製作所跡は国指定史跡。鷹巣石鍋製作所跡は長崎市指定遺跡。	選定基準4
	鳴見町 遠ノ木場	ざくろ石-黒雲母流紋岩体…サヌキトイド岩体に併入した状態で産出する。	
	鳴見町 白髪滑石トンネル西口	ざくろ石-黒雲母流紋岩質白色凝灰岩層(層厚約50-20cm)。砂質片岩を被覆して産出し上位を長崎火山岩類に被覆されている。	選定基準4
	牧野町 矢筈岳	高マグネシア安山岩:HMA溶岩=カンラン石複輝石安山岩で貫入年代は約570万年前。 矢筈岳の角閃石デイサイト質角礫岩にHMA溶岩が貫入している。	選定基準4
	西海町 谷門	黒雲母-角閃石デイサイトで820万年前に活動した複数の溶岩ドームからなる。溶岩ドーム中心部は灰白色で斜長石粒が見られ、晶洞にはトリディマイトが生じている。 溶岩ドーム周辺部は暗灰緑色で10mm大角閃石、黒雲母、カンラン石、石英、普通輝石、紫蘇輝石等が見られる。溶岩ドーム全体に直径1.2m大の柱状節理が発達し、門柱などの置き石に活用されている。江戸時代より西海石と呼ばれ採掘された。	
	野母町北西海岸断崖 塩基性片岩: Green rock	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体)よりも下位にあると推定される塩基性片岩が分布している。この塩基性片岩内には片理にそって石灰岩が挟在している。	
	布巻町、椿ヶ丘町、宮崎町、脇岬町	蛇紋岩(ハルツバージャイト起源): 貴蛇紋岩、板温石、絹布石、滑石、緑泥石、磁鉄鉱。	
三ツ山町-犬継-六枚板-兵底 川平町-赤水平-筒水平-カ場坂	川平閃緑岩体: 川平金山跡-微閃緑岩-ひん岩-プロピライト-ホルンフェルス。		
岩石・層序	小瀬戸町 皇后島	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体)変角閃岩、変閃緑岩、マイロナイト付加体が海岸に露出している。	選定基準4
	虹が丘町 上揚峠	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体)変角閃岩、変閃緑岩が産出するが、現在コンクリート防護壁で被覆されている。	
	野母崎周辺 三ツ瀬	野母オフィオライト付加体(変斑れい岩複合岩体)変角閃岩、変閃緑岩、変花崗岩が産出する。	
	脇岬町 弁天山西海岸	層厚約30mの三ツ瀬層砂岩泥岩互層から哺乳類やハドロサウルス(白亜紀後期)化石が発見された。	
	下黒崎町 下黒崎郷南海岸	無斑晶質安山岩岩脈: 幅5m×長さ200mで西彼杵変成岩類泥質片岩に貫入している。本岩脈は海面に近い急冷部では黒色玄武岩であり、溶岩ドームの中央部では灰白色無斑晶質安山岩に変化している。	
	西出津町 西出津郷西海岸	神浦玄武岩岩脈: 幅10m×長さ350mで西彼杵変成岩類泥質片岩に貫入している。本岩脈は海面に近い急冷部では黒色玄武岩であり、溶岩ドームの中央部では灰白色無斑晶質安山岩に変化している。	
	本河内トンネル 西入口西方 250m市道の崖	カンラン石玄武岩岩脈: 幅15mで新鮮、長崎火山岩類安山岩溶岩に貫入している。	

	飯香浦町 小甌岩	長崎火山岩類の複輝石安山岩プラグドーム中に“含球安山岩”を含有し、その周辺に溶結アグルチネートと火山弾が多産。	選定基準4
	潮見町、太田尾町、飯香浦町の東海岸断崖	長崎火山岩類の複輝石安山岩火砕岩中に弱溶結ブロックアンドアッシュフロー堆積物が多産する。	選定基準4
層序・化石	矢上町 矢上小学付近 矢上層群 侍石層 〈海緑石砂岩層…鍵層〉 〈有孔虫化石〉 《鍵層:示相化石》	海緑石砂岩層: 矢上層群侍石層中には緑色砂粒状の海緑石が産出する。海緑石砂岩層は九州の古第三紀層の鍵層である。侍石層の風化した淡黄褐色細粒砂岩層中には有孔虫化石が多産する。	
岩石・地形	外海地区 小角力(高さ19.0m)	野々岳安山岩類の火山岩頸	
	式見町 神楽島	神楽島サヌキトイド(無斑晶質複輝石安山岩): 火山岩頸はおもに火道角礫岩。 神楽島西岸では、火山岩頸断崖が波浪の侵食をうけて海食洞が形成されている。	選定基準4
	鳴海町白髪西方 コン岳	コン岳淡灰緑色溶岩ドームはアダカイト(角閃石デイサイト)。本溶岩ドームの北側は石垣用石材として採石されていた。	
	牧島町 曲崎西対岸の汀	曲崎西対岸の火口縁には、ストロンボリ式噴火によって放出された玄武岩質アグルチネート～アグロメレートが露出し、無数の赤色火山弾(最大1.5m大)に混じって溶岩餅やパン皮状火山弾が産出する。	選定基準4
	江平地区 穴弘法	長崎火山岩類の角閃石複輝石安山岩質アグルチネートで強溶結火砕岩。本強溶結火砕岩は江戸時代より旧市内各所で石材として活用されている。	選定基準4
	稲佐山公園～岩見町	稲佐山溶岩ドーム: 稲佐山公園から岩見町方面にかけて弱溶結ブロックアンドアッシュフロー堆積物が大量に分布している。	選定基準4
	宮崎町 川原大池	大池浜堤(大池ビーチリッジ)によって大池潟湖(大池ラグーン)ができた。円磨された蛇紋岩中礫が集まってできた大池浜堤は全国的にも珍しい。 《県天然記念物》	選定基準4
	野母町野母漁港入り口～畔津	巨礫質ビーチロック(畦津礫岩)発達	
	下黒崎町 下黒崎郷	城山溶岩ドーム: 下部は黒色玄武岩、上部は灰白色無斑晶質安山岩。 小城溶岩ドーム: 下部は黒色玄武岩、上部は灰白色無斑晶質安山岩。	
	外海町地区 妙正岳	妙正岳溶岩: 無斑晶質玄武岩(サヌカイト様玄武岩=急冷玄武岩)	選定基準4
	外海町地区 大野岳	大野岳溶岩ドーム: 無斑晶質安山岩=HMA	選定基準4
	本河内町-矢の平-田手原町彦山	彦山溶岩ドーム: 無斑晶質安山岩(サヌカイト様安山岩)	選定基準4
	本河内町-田手原町豊前坊	豊前坊溶岩ドーム: 無斑晶質安山岩(サヌカイト様安山岩)	選定基準4
	愛宕-彦見町 愛宕山	愛宕山溶岩ドーム: 斑晶質複輝石安山岩	選定基準4
	鳴見町 片平山	片平山溶岩ドーム: サヌキトイド溶岩	選定基準4
	鳴見町 大岳	大岳溶岩ドーム: サヌキトイド溶岩	選定基準4
	畝刈町 ニツ岳	ニツ岳溶岩ドーム: サヌキトイド溶岩	選定基準4
	神浦上大中尾町	神浦玄武岩溶岩(820万年前)	選定基準4
	外海地区 野々岳	野々岳安山岩(高マグネシア安山岩=HMA)	選定基準4
	檜山町西檜山	檜山玄武岩溶岩-柱状節理～板状節理	選定基準4
	式見町向町海岸 《県天然記念物》	西彼杵変成岩類泥質片岩を被覆して長崎火山岩類が分布しているが、その不整合関係が県天然記念物に指定されている。	

層序	北浦町赤崎鼻海岸の 複数の不整合	1: 野母変成岩類変斑れい岩と泥質片岩との不整合面。2: 変斑れい岩と層状チャート質片岩との不整合面。3: 変斑れい岩と泥質片岩との間に生じた赤色メランジュ帯との不整合面。4: 泥質片岩と三ツ瀬層の不整合面。5: 変斑れい岩と長崎火山岩類の不整合面。6: 泥質片岩と長崎火山岩類の不整合面。7: 三ツ瀬層と長崎火山岩類の不整合面。8: 茂木玄武岩類と長崎火山岩類の不整合面などが狭い範囲に集中して観察できる点で国内でほかに例がなく大変貴重である。	
金銀・鉱床	川平六枚板-赤水平:川平金山	川平閃緑岩中に10数条の金鉱脈があり、鉱石1トンあたり金687g、銀355gを含有。	
銅鉱床	川原町木場鉱山	キースラガー(層状含銅硫化鉄鉱床)	
マンガン鉱床	西海町村松鉱山、琴海戸根町戸根鉱山、崎山鉱山、琴海尾戸町猪越鉱山、松崎町三重鉱山。	マンガン鉱を産出。他にブラウン鉱、紅簾石、紅簾石片岩を伴っている。	
鉄鉱床	三重町三輪鉱山 樺島町 行者山登山口付近	鉄鉱石 砂質片岩(=スチルプノメレン片岩)中に層厚約50cmの磁鉄鉱片岩が挟在。	
珪石鉱床	鹿尾鉱山、平山、川原木場、脇岬、鶴山、茶屋峠、扇山、御用堤、矢戸	珪石 分泌石英脈鉱床、残留転石鉱床。 堆積珪石鉱床…市域では未発見。	
滑石鉱山	西彼杵型滑石鉱床:神浦、長浦。 鷹ノ巣石鍋製作所跡	滑石:蛇紋岩の変質帯が滑石片岩。 滑石製石鍋未完成レリーフ	
石綿鉱山	布巻町鈴鹿鉱山、蚊焼町明治鉱山、栄上鉱山	石綿(アスベスト):蛇紋岩の割れ目に沿って繊維状石綿、塊状石綿として産出する。	
碎石場	西海町 堂風岳周辺 谷門山周辺 小江町 周辺	サヌキトイド:バラス専用碎石。 デイスait:石垣石専用碎石。 バラスも稼行。 複輝石安山岩:バラス専用碎石。 ※採石場跡が市営アパートや分譲住宅敷地に活用されている。	
層序-地形	大籠町 城山(△350.4m)	善長礫岩層(層厚20m):変成岩角礫岩層(層厚5m)を被覆して、玄武岩質円礫岩層(層厚15m)が分布している。頂上では善長礫岩層を中新世後期と推定される城山玄武岩が被覆している。	選定基準4
	茂木千鳥一弁天山  〈5:安山岩質火山角礫岩〉 〈5:茂木植物化石層〉  〈4:弁天山砂礫層〉 〈3:茂木玄武岩〉 〈2:千鳥砂礫層〉 〈1:茂木花崗岩〉	若菜川河口北汀の千鳥には広く1:茂木花崗岩が分布している。1:茂木花崗岩を被覆して千鳥から巖島神社鳥居付近まで2:千鳥砂礫層(層厚約20m)が分布し、弁天山から南東側の千鳥一恵比寿神社付近で上位を3:茂木玄武岩に被覆され、さらに巖島神社境内で4:弁天山砂礫層(層厚3m)に被覆されている。5:茂木植物化石層(約570万年前)は堀切-白岩付近で2:千鳥砂礫層を被覆している。 2:千鳥砂礫層は、逆断層で5:茂木植物化石層を南西側から突き上げているので、5:茂木植物化石層の基底礫岩ではない。	
	柿泊町白浜海水浴場  笠岩 《県天然記念物》	西彼杵変成岩類泥質片岩を被覆して長崎火山岩類最下部の角閃石デイスait質溶結ブロックアンド アッシュフロー堆積物が分布している。白浜海水浴場南部200mにある天然記念物“笠岩”は本ブロック アンド アッシュフロー堆積物の末端部と推定される。 本角閃石デイスaitは茂木植物化石層の角閃石流紋岩に酷似しているので活動年代も同時期ではないかと推定される。	選定基準4
	平山町一竿浦町一柳田町一草住町一三和町方向  平山町一布巻町一為石町方向	平山段丘礫層:平山を中心に三和町方向と為石漁港方向に形成されている。砂質片岩、玄武岩、安山岩(長崎火山岩類)の中礫~巨礫を含有する更新世後期の段丘礫層で平山河成段丘である。 平山河成段丘は平山扇状地によって形成された。	選定基準4

地 形	脇岬町－祇園山と岬	陸繋島と陸繋砂州(トンボロー : Tombolos)	選定基準4
	脇岬町－野母崎と里	溺れ谷－リアス式海岸	選定基準4
	長崎市－長崎港	溺れ谷－リアス式海岸	選定基準4
	琴海形上町－形上湾	溺れ谷－リアス式海岸	選定基準4
	野母町－野母漁港	溺れ谷－リアス式海岸	選定基準4
	野母崎樺島町－樺島漁港	溺れ谷－リアス式海岸	選定基準4
	飽の浦町	飽の浦段丘(段丘面標高80～90m)	
	大鳥町	大鳥段丘(段丘面標高70～80m)	
	本原町	本原段丘(段丘面標高50～60m)	
	平野町 市内各地	平野段丘(段丘面標高40～50m)	
	馬町－桜町－万才町	万才段丘(段丘面標高60～70m)	
	昭和町	昭和段丘(段丘面標高20～30m)	
	家野町	家野段丘(段丘面標高20～30m)	
	浦上川の沖積層	浦上川砂礫部層	
	浦上川の沖積層	松山砂礫部層	
	中島川の沖積層	出島粘土層	
	稲佐町－曙町	稲佐段丘礫層 稲佐段丘面(標高30～40m)	
	弁天町－江の浦町－旭町	旭段丘礫層 旭段丘面＝低位段丘面 (標高10～30m)	
	外海地区神浦上大野郷西海岸	外海断層: 北方に多以良断層－呼子ノ瀬戸断層と連続する構造線が推定される。	
	稲佐町－曙町 稲佐段丘礫層と稲佐段丘面	稲佐段丘礫層(稲佐段丘面:標高30～40m)、稲佐段丘面が形成された更新世後期(約1万年前)には、海面が現在の標高40mのところまでであったと推定される。→海面上昇期	
	弁天町－江の浦町－旭町	旭段丘礫層(低位段丘面:標高10～30m)	
	平和公園	浦上川河成段丘	
	馬町－桜町－江戸町	浦上川－中島川の河成段丘	
	長浦町手崎－琴海戸根原町－琴海戸根町 長浦段丘礫層と長浦扇状地	長浦段丘礫層: 西彼杵変成岩類-玄武岩類の礫岩層。長浦扇状地と複合した海成段丘(層厚約5～20m)で段丘面標高は10～20m。古期の低位段丘である。	選定基準4
	牧島町曲崎礫堤(曲崎ビーチリッジ)と曲崎古墳群	・曲崎礫堤(曲崎ビーチリッジ): 曲崎礫堤上には、曲崎古墳群(古墳時代後期)として498基が確認されている。 ・曲崎礫堤の最高標高は約8m+; 曲崎では、牧島玄武岩を被覆して曲崎礫堤に安山岩質巨大楕円体礫が無数にみられるが、海面上昇期に曲最南端より沿岸流によって運搬されたのか、安山岩の給源と礫堤形成過程に謎が残る。	選定基準4
	茂木町 茂木市街地 茂木礫堤(茂木ビーチリッジ)と橘湾の沿岸流	茂木礫堤(茂木ビーチリッジ): 若菜川が運搬した堆積物が橘湾の沿岸流(野母崎→茂木→有喜方向に時計回り)によって流されて形成された。茂木礫堤(茂木ビーチリッジ)は玉台寺方向から若菜橋方向に成長し、層内には縄文遺跡が多数埋蔵されている。	
平山町 平山扇状地と平山段丘礫層	大川上流小八郎川によって形成された平山扇状地は成長とともに為石方向と土井首方向に平山段丘礫層を形成した。	選定基準4	
東町 藤尾扇状地と藤尾河成段丘	瀬古川の造る藤尾扇状地は、八郎川の河成段丘＝藤尾河成段丘に連なっている。	選定基準4	
古賀町 松原段丘礫層と松原河成段丘	松原段丘礫層は、八郎川と間ノ瀬川の合流点に形成された複合扇状地であり、松原河成段丘に連なっている。	選定基準4	
平和町 原爆中心地被爆遺構	被爆遺構: 被爆地層-被爆瓦-被爆煉瓦片		
小計	131地点 264件		

選定基準4: 動植物の生育地として重要な地形地質

分類	所在地	名称 - 地質・地形 -	備考
岩石-層序	唐八景	唐八景礫岩層:長崎火山岩類複輝石安山岩溶岩を被覆する火山円礫岩層(くさり礫層)。	
岩石-地形	東町～上戸石町(行仙火山岩類)	行仙岳溶岩ドーム 普賢岳溶岩ドーム	
	船石町～川内町(行仙火山岩類)	船石岳溶岩ドーム 松尾岳溶岩ドーム	
	船石町～中里町	井樋ノ尾岳溶岩ドーム(行仙火山岩類)	
	三ツ山町～現川町	帆場岳溶岩ドーム(長崎火山岩類)	
	鳴滝～本河内	天竺山溶岩ドーム(長崎火山岩類)	
	江平～西山	烽火山溶岩ドーム(長崎火山岩類)	
	伊良林～風頭山西側 (風頭石採石場跡)	風頭石は、長崎火山岩類で斑晶質角閃石複輝石安山岩。中礫サイズの黒色玄武岩質捕獲岩を多量に含有するのが特徴である。眼鏡橋の歩道石並びに長崎奉行所跡の階段石は風頭石で建設されている。	
	赤首町-西出津町西海岸	海食台:赤首-西出津間の約2kmにわたって発達している。	
	北浦町 目長～赤崎鼻海岸	海食台:目長-赤崎鼻間の約0.5kmにわたって発達している。	
	飯香浦町 飯香浦河口-枇杷崎	海食台:飯香浦河口-枇杷崎間の約0.7kmにわたって発達している。	
宮崎町 川原大池	大池浜堤によって大池潟湖ができた。大池浜堤は蛇紋岩中楕円体礫によって構成されている。大池浜堤の蛇紋岩礫径は大瀬鼻方向では直径50cm大の巨大楕円体礫で宮崎付近は中楕円体礫、蛭子崎方向では小楕円体礫と変化。		
宮崎町 小池 (宮崎ダム公園)	宮崎浜堤(宮崎ビーチリッジ)によって小池潟湖(小池ラグーン)が形成された。現在は宮崎ダム公園が建設されている。		
野母町 野母港入口～畔津	巨礫質ビーチロック(畔津礫岩)が形成。		
地形	琴海形上町 飯盛山東部どぶ池(河川争奪)	飯盛山東部の古河川が、藤原川によって争奪され流路が変わり、どぶ池が形成された。	
	早坂町～茂木町(河川争奪)	古若菜川が古川平川によって争奪され、流路が約120° 変化し谷底平野が形成された。	
	上戸町～大山町～磯道町(河川争奪)	鹿尾川(上流鹿尾ダム付近)と磯道町西部の鹿尾川(下流)とは360° 流路が変わる課程で上戸町～新戸町平野が形成された。	
	神浦北大中尾町～神浦下大中尾町(穿入蛇行)	泥質片岩をキャップロック状に被覆している神浦玄武岩(820万年前)が侵食されて地這りをおこし、大中尾棚田の地這り地形が形成された。	
	脇岬町 岬	1955年頃までの岬(観音寺前)には東陸繋砂州(東トンボロー)と西陸繋砂州(西トンボロー)が発達し、その間に岬潟湖(岬ラグーン)があったが埋積されてグランドになった。	
	脇岬町 弁天山と岬	脇岬海岸砂丘:西側陸繋砂州(西側トンボロー)が発達し標高は約15m。	
	野母町 野母崎と里	陸繋島(権現山)と里陸繋砂州(里トンボロー)	
	網場町-1955年頃まで網場から有喜-小浜-茂木方面に航路があった。	網場砂嘴(網場サンドスピッツ)は網場港の東防波堤の役目をしている。	
	八郎川河口	干潟-砂州	
	市民の森	峡谷:V字谷	
	檉山町	沖積地:低層湿原	
	琴海形上町 四戸ノ川	小規模三角州(デルタ) 低層湿原	
	長浦町 手崎川	小規模三角州(デルタ) 低層湿原	
	琴海戸根原町 戸根原川	小規模三角州(デルタ) 低層湿原	
	琴海戸根町 戸根川	小規模三角州(デルタ) 低層湿原	
	西海町 河口	谷底低地 干潟	

畝刈町 多以良川	小規模三角州(デルタ) 谷底低地 干潟	
浦上川流域	沖積低地(谷底低地) 沖積層	
浦上川河口	干潟	
小計	52地点	83件

地質・地形の合計 …………… 236地点 523件

- (分類) 層序:新旧関係、不整合、年代、堆積構造、地質構造、断層、褶曲  
 岩石:火成岩・堆積岩・変成岩の岩石一般  
 鉱物:鉱物一般  
 鉱床:鉱山などで採掘された有用な岩石鉱物  
 化石:化石一般  
 地形:地形一般

※地形:これまでの名称と定義はおもに [A: 国土地理院(1999) 日本の典型的地形]を基準にしてあるが、これは明治・大正・昭和初期(戦前)の地形学・地質学の概念で編集してあり、今日的ではないので [B: 町田ほか編(1988) 地形学辞典、日本地質学会編(2004) 地質学用語集]などを参考にした。分類はAに従い、名称はBにより平成時代の地球科学用語を用いた。現世の地形はごく新しく、約数十万年前頃から形成されたものなので、分類の順序も上記のように変更した。

《おもな参考文献》

- 地学団体研究会 新版地学事典編集委員会編(2007) 新版 地学事典. 平凡社.  
 服部 仁(1984) 長崎変成岩類の放射年代とその帰属. 長崎県地学会誌、41、11-25.  
 服部 仁・井上英二・松井和典(1993) 地域地質研究報告、5万分の1地質図幅『神浦地域の地質』. 地質調査所.  
 広川 治・水野篤行(1962) 5万分の1地質図幅『肥前高島付野母崎』及び同説明書. 地質調査所.  
 ハンス-ウルリッヒ シュミンケ《隅田まり・西村裕一訳》(2010) 火山学. 古今書院.  
 鎌田泰彦(1976) 土地分類基本調査図、5万分の1表層地質図『野母崎』. 長崎県.  
 鎌田泰彦(1991) 長崎県の天然記念物(地質・鉱物). 長崎県天然記念物実態調査報告書. 長崎県教育委員会、13-52.  
 鎌田泰彦(1994) 大地は語る. ふるさとの風景の歴史、長崎県自然保護協会.  
 唐木田芳文・早坂祥三・長谷義隆編(1992) 日本の地質 9 九州地方. 共立出版.  
 近藤 寛・西山忠男・布袋 厚(2013) 長崎の地質. 新長崎市史、第一巻自然編、70-120.  
 小元久仁夫・伊藤佑始(2016) 長崎県天然記念物・脇岬のビーチロックの形成年代. 地学雑誌、125 (3)、409-419.  
 町田 貞・貝塚爽平・榎根 勇・井口正男・佐藤 正・小野有吾(1988) 地形学辞典. 二宮書店.  
 西村暉希(1971)長崎県のbeachrock (1) 西彼杵郡野母崎町にみられるbeachrock 脇岬礫岩(仮称). 長崎北高校論叢、1、1-18.  
 西村暉希・服部 仁(1977) 九州最古の岩石、野母半島の変はんれい岩. 長崎県地学会誌、26、32-37.  
 小川勇二郎・久田健一郎(2005) Field Geology 5 付加体地質学. 共立出版.  
 大島恒彦(1955) 長崎県野母半島の交代岩類について(1). -地質概説並びに蛇紋岩について-、佐賀大教論文集5、101-112.  
 大島恒彦(1957)長崎県野母半島の交代岩類について(2). -擬礫片岩を除く交代岩類について-、佐賀大教論文集7、89-102.  
 大島恒彦(1958)長崎県野母半島の交代岩類について(3). -擬礫岩片岩について-、佐賀大教論文集8、17-34.  
 大島恒彦(1964)長崎県野母半島の結晶片岩. 九大理学部研究報告、地質学之部、7、1、39-45.  
 長崎県地学会編(1971) 長崎県の地学. 一日曜巡検ガイドブッカー、長崎県地学会.  
 田島俊彦(2016) 長崎県野母半島の侵食平坦面に散在する楕円体礫. 長崎県地学会誌、80、1-8.  
 Toshimasa Tanai (1976) The revision of the Pliocene Mogi Flora, described by Nathorst (1883) and Florin (1920). Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. IV, vol.17, no. 2, 277-346.

### 13 参考資料(各分類群の主要な種の解説・写真)

#### ① 「植 物」

##### キキョウ (キキョウ科)

*Platycodon grandiflorus* (Jacq.) A. DC

長崎市カテゴリー； 絶滅 (EX)

分布；旧長崎市南部

##### 摘要

山野の日当たりの良い所に育ち万葉集のなかで秋の七草と歌われている「朝貌の花」は本種であると言われています。葉は互生し、長卵形、へりには鋭い鋸歯があり、葉表は濃緑色で葉裏は白味を帯びます。葉や茎をちぎると白乳色の汁がで、8月に茎の先端に青紫色の花を咲かせます。近年では、鹿の食害等により絶滅したと考えられます。



##### ナツエビネ (ラン科)

*Calanthe reflexa* Maxim.

長崎市カテゴリー；絶滅危惧 I A類 (CR)

分布；旧長崎市南部,

##### 摘要

山地の林床に生育する多年草で、葉は束生し、狭長楕円形、長さ20~30cm、やや白味を帯びた緑色で縦じわが多く、夏に花茎を伸ばし、10~20個の薄紫色の花を咲かせます。



##### ナガサキギボウシ (キジカクシ科)

*Hosta tibae* F. Maek.

長崎市カテゴリー；絶滅危惧 I B類 (EN)

分布；旧長崎市西部・南部・北部

##### 摘要

林内のやや湿った岩上などに生育する多年草で、9月に花穂を出し多数の薄紫色の花を咲かせます。葉は卵形または長卵形で、長さ15~25cm、質はやや厚く、基部は葉柄にやや流れます。





## ② 「哺乳類」

キクガシラコウモリ (キクガシラコウモリ科)  
*Rhinolophus ferrumequinum* (Schreber, 1774)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布；市内に散在する防空壕

### 摘要

コキクガシラコウモリと形態は似ていますが、より大型で、休憩したり冬眠しているときは翼で全身を覆い隠しています。洞窟に生息し、夕方、小昆虫を求めて飛び立ち、明け方にもどってきます。主な生息環境の洞窟の減少により、個体数も減少しています。



## ③ 「鳥類」

コシヤクシギ (コシヤクシギ科)  
*Numenius minutus* Gould, 1841

長崎市カテゴリー；絶滅危惧 I A 類 (CR)

分布；市内神ノ島町、脇岬町

### 摘要

全長31cmで、クチバシが下に曲がった杓シギ類では最も小さく、春の渡りの季節に稀に見られます。他の杓シギ類と食性が異なり、干潟に入ることはなく開けた草地や農耕地で見られます。佐賀県では、佐賀空港の周辺の草地で良く見られており、神ノ島では工業団地の草丈の低い乾燥地で見られています。



ハヤブサ (ハヤブサ科)  
*Falco peregrinus* Tunstall, 1771

長崎市カテゴリー；絶滅危惧 I B 類 (EN)

分布；野母崎樺島町、神ノ島町、伊王島町など

### 摘要

全長オス41cm、メス49cmで長崎県内では、ほぼ周年見られますが、9月から3月にかけて冬鳥として越冬する個体を見る機会が増えています。5月下旬、野母崎樺島町や伊王島町などの離島で雌雄と思われる個体がしばしば観察されていることから繁殖の可能性は高いようです。



## マナヅル (ツル科)

*Grus vipio* Pallas, 1811

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；野母崎樺島町、神ノ島町、稲佐山など

### 摘要

全長127cmで、マナヅルも春の渡りでは、ナベヅル同様に長崎上空を通過しますが、季節はナベヅルより1か月早く2月中～下旬に見られることが多いようです。2002年4月に渡りに遅れたマナヅル1羽が神ノ島にしばらく逗留した事例があり、神ノ島の広い造成地がツル類の緊急避難場所として利用されているようです。



## ④ 「爬虫類」

### アカウミガメ (ウミガメ科)

*Caretta caretta* (Linnaeus, 1758)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布；旧野母崎町の砂浜海岸など

### 摘要

太平洋全域を広く回遊し、長崎県を含む九州で夏季に繁殖します。夏季の夜の砂浜が産卵場所となりますが、海水浴客などが砂浜にいると上陸できません。産卵には、満潮時でも海水に浸らない砂浜が必要となりますが、護岸工事により産卵可能な砂浜が減少しています。



## ⑤ 「両生類」

### カスミサンショウウオ (サンショウウオ科)

*Hynobius nebulosus* (Temminck & Schlegel, 1838)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；都市部を除く長崎市全域

### 摘要

体長15cm程度で雑木林に生息し、冬季に水田や水路に集まり産卵します。また、山際の水田や湧き水、ため池など少しの水場でも産卵を行います。都市部を除く市内全域に広く分布しますが、確認場所や卵塊数は毎年減少しています。卵塊は巻いたバナナ状で内部に100前後の卵を含んでいます。



## ⑥ 「淡水性魚類」

### ミナミメダカ (メダカ科)

*Oryzias latipes* (Temminck & Schlegel, 1846)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；市内20数カ所

#### 摘要

全長3cmほどになり、平野部の溜池、用水路、河川下流域の緩流部に生息しています。市内では市街地を中心に生息地が減少しています。市販されている個体を野外放流することによる遺伝的攪乱が懸念されます。



## ⑦ 「昆虫類」

### イシイムシ (ガロアムシ科)

*Galloisiana notabilis* (Silvestri, 1927)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧ⅠA類 (CR)

分布；岩屋山

#### 摘要

2~3cmの原始的な昆虫でガロアムシ科に属し、山中のガレ場の地下に生息しています。長崎市で約80年ぶりに再発見されています。画像は多良岳産。



### ヘイケボタル (ホタル科)

*Luciola lateralis* Motschulsky, 1860

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；相川町馬乗川平休耕田、黒崎永田湿地自然公園

#### 摘要

日本では、ゲンジボタルと並んで、身近な光るホタルです。休耕田や湿地で見られ、日本産水生ホタル3種の中では最も小型です。幼虫は、主に止水域に生息する巻貝のモノアラガイ類を食べ、生息地が局地的です。



コオイムシ (コオイムシ科)

*Appasus japonicus* (Vuillefroy, 1864)

長崎市カテゴリー；準絶滅危惧 (NT)

分布；市内各所

摘要

2cm程の水生カメムシの仲間です。主に溜池などに生息し、小動物を捕食します。オスの背中に雌が産卵し、孵化するまで雄が保護する習性があります。



⑧ 「剣尾類・十脚甲殻類」

ハクセンシオマネキ (スナガニ科)

*Uca lactea* (De Haan, 1835)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；多以良川、神浦川、小江川、戸石川、八郎川など

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河口や内湾奥の砂泥干潟に生息し、雄の片方の白いハサミが大きく特徴的です。神浦川では最近河川改修により、生息地が大きく変更されています。一方、長崎湾奥の人工的な干潟である水辺の森公園では1個体の確認がなされています。



フジテガニ (ベンケイガニ科)

*Clistocoeloma villosum* (A. Milne-Edwards, 1869)

長崎市カテゴリー；絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

分布；多以良町、琴海尾戸町

摘要

甲幅1.5cmほどになり、河口や内湾の転石海岸やイネ科などの塩生植物一帯に生息します。市内では2ヶ所で確認されていますが、一度に確認される数も少なく、確認地点一帯で見つかる可能性もありますが、生息地は限定的と考えられます。



## ⑨ 「淡水性貝類」

### ケマンガイ (マルスダレガイ科)

*Gafrarium divaricatum* (Gmelin, 1791)

長崎市カテゴリー；準絶滅危惧 (NT)

分布；大村湾海岸各地、手熊町、蚊焼町、小江町

摘要；

流通しているアサリよりも一回り大きい二枚貝です。潮間帯～水深20m程の砂礫底に潜って生息しています。市内では大村湾沿岸部で比較的多く生息していますが、他の海域では希です。大村湾沿岸の一部では「スズメガイ」として食用となっています。



### ウミニナ (ウミニナ科)

*Batillaria multiformis* (Lischke, 1869)

長崎市カテゴリー；準絶滅危惧 (NT)

分布；市内各所

摘要

殻高3cmほどになり、市内ではハウジョウミナとして販売されています。河口や内湾の泥～砂泥干潟に生息し、砂礫浜でも確認されることがあります。市内でもホソウミニナと共に各所に生息していますが、市街地を中心に埋め立てなどにより減少傾向にあります。



#### 14. 長崎市自然環境調査委員名簿

委員名	担当分野	役職・所属
中西 弘樹	植物・植生	長崎大学名誉教授
松尾 公則	哺乳類、爬虫類、両生類	長崎女子短期大学教授 長崎県生物学会会長
菅野 聖二	鳥類	長崎県野鳥の会会長
深川 元太郎	淡水性魚類 剣尾類・十脚甲殻類 淡水性貝類	(公社)長崎県食品衛生協会 食品環境検査センター 環境省希少野生動植物種保存 推進委員
田中 清	昆虫類	長崎県立長崎北高等学校教諭

#### 地形・地質協力者名簿

	担当分野	役職・所属
田島 俊彦	地形・地質	長崎県地学会会員